

荒れている農地の有効利用に向けた取組事例

●オリーブの生産により、地域農業の確立を目指す!

(香川県 小豆島町 池田地区 東洋オリーブ(株)の取組)

調査

調査

○地域の現状

本地域は、瀬戸内の温暖な気候を利用し、菊、オリーブ、柑橘等の生産が行われていたが、農業者の高齢化、有害鳥獣(鹿、狸等)による被害、後継者の不足により、荒れている農地が増加し、農地の再生が地域の課題となっていた。

○地域の農地を有効利用することとなった要因

小豆島町では、平成15年から「オリーブ振興特区」により、企業によるオリーブの栽培を推進した。また、農家に対しても省力的営農推進のため、オリーブの栽培を推奨してきていた。



荒れている農地の現状

準備(東洋オリーブ(株))

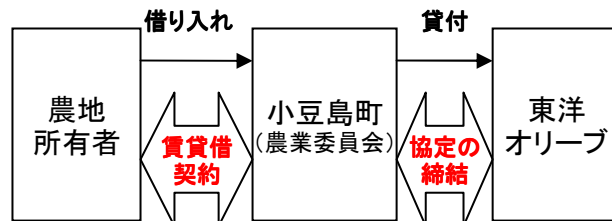
準備

- 昭和30年代から山林を開墾し、自社農園でオリーブの生産を行う。
- 平成18年7月 「特定法人貸付事業」に係る協定書を締結。
- 特定法人貸付事業等を活用してオリーブの栽培面積を拡大。
 - ① 町が介入することにより、農地所有者との協議・調整が速やかに行われた。
 - ② 一筆当たりの借地面積が小さく、まとまった農地の借り上げが困難なか、賃貸借により経営規模を拡大。(現在、小豆島町での経営規模は10ha程度)
- 今後も、荒れている農地の再生(借入期間10年契約)等により、経営の安定を図る。

農外企業の推進イメージ

- 取組課題
 - ・ 営農の確立(オリーブの生産拡大)
 - ・ 農地の流動化(参入企業等への農地の集積)
 - ・ 経営規模の拡大のため荒れている農地を有効活用

(小豆島町全域)



- 小豆島町 小豆島町耕作放棄地対策協議会
- ・ 耕作放棄地再生利用 緊急対策の活用
- ・ 参入企業等への重点的営農確立・支援

支援

再生活動

耕作放棄地再生利用緊急対策（国）を活用（県の再生費用の支援含む）
（取組主体：東洋オリーブ(株)）

- 荒れている農地の有効利用にあたっては、小豆島町から本対策を紹介され、利用権設定により再生作業に取り組む。
 - ① H21年度、0.05ha（1筆）、H22年度0.3ha（1筆）の刈り払い・除根・耕起・整地、土壌改良を実施。
 - ② なお、小豆島町内では、企業のほか地域農業者がH21年度0.6ha、H22年度1.3haの再生作業を実施している。



刈り払い



伐採



抜根



耕起



整地



土壌改良（堆肥投入）

利用活動

（活動主体：東洋オリーブ(株)とオリーブ栽培をしている地域農業者）

- ① これまでに確保した農地と荒れている農地の有効活用（経営面積の拡大）により、オリーブ果実の生産量の確保（H20：45t/年）を図り、今後も、小豆島ブランドのオリーブ商品（オイル、塩蔵用）の加工に取組み、企業の経営の安定を図る。
- ② 地域の農業者が生産したオリーブ果実についても、JAを通じて買取を行い、加工品等の生産量を確保。
- ③ 取組の特徴
 - ・ オリーブ製品製造企業の先駆者として、小豆島産オリーブ商品及びオリーブ関連商品の製造販売を通じて、高付加価値企業として地域に貢献。
 - ・ 景観保全・環境美化を含めて「オリーブの島：小豆島」を目指し、地域に貢献。

（営農）状況



オリーブの栽培



東洋オリーブ直営販売店



加工品の販売